

第3章 スノーリゾート推進に向けた札幌の現状

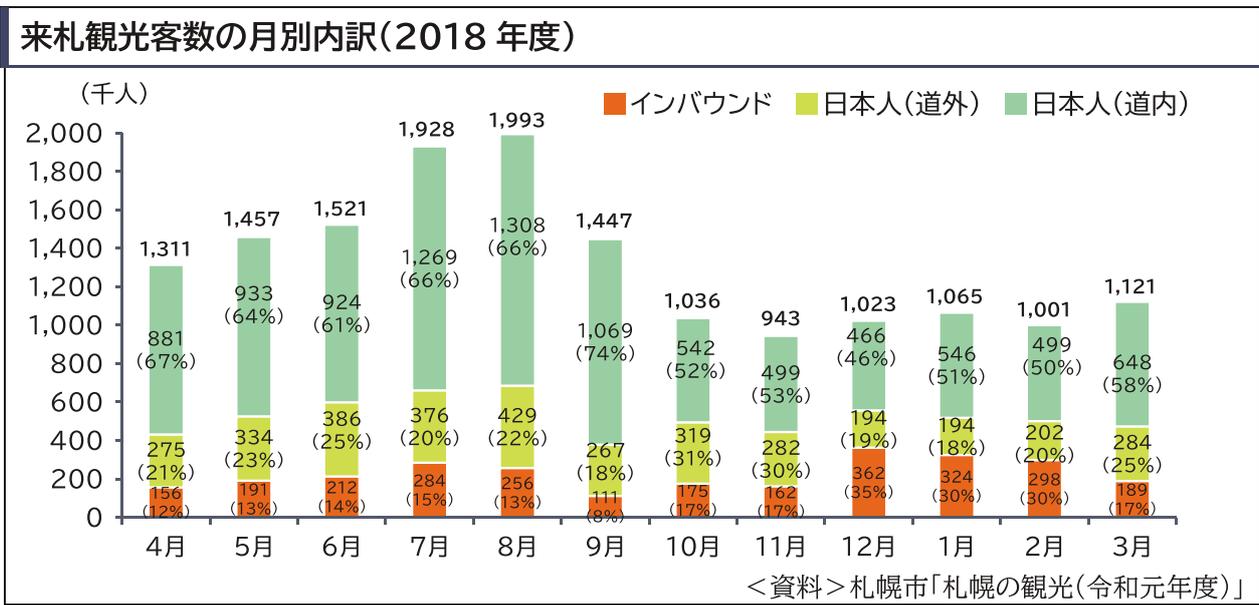
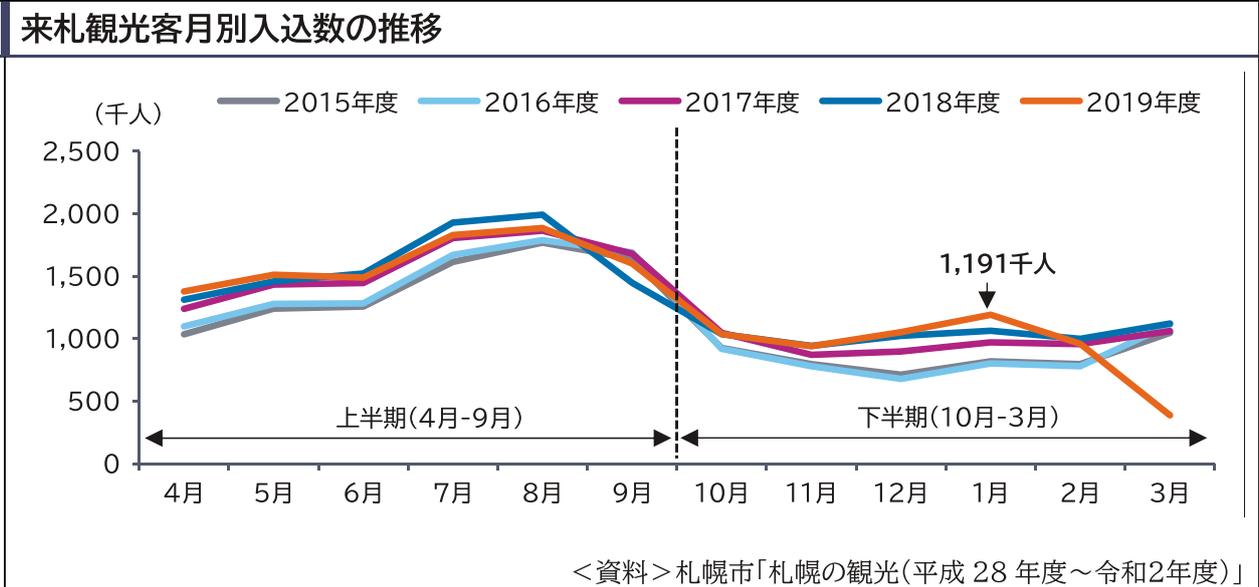
1. 冬期における札幌観光の現状分析

(1) 観光客入込数

① 来札観光客月別入込数の状況

来札観光客の月別入込数は、上半期(4月～9月)と下半期(10月～3月)で大きな繁閑差があり、夏期のピーク時と比較すると、冬期は半数程度の入込数となっています。

しかし、近年、インバウンドが冬期に多く訪れることで、下半期の入込数も増加傾向となっており、令和2年(2020年)1月には、下半期の月別人数としては過去5年間で最多の1,191千人となったものの、その後、コロナウイルスの影響等により大きく落ち込んでいます。

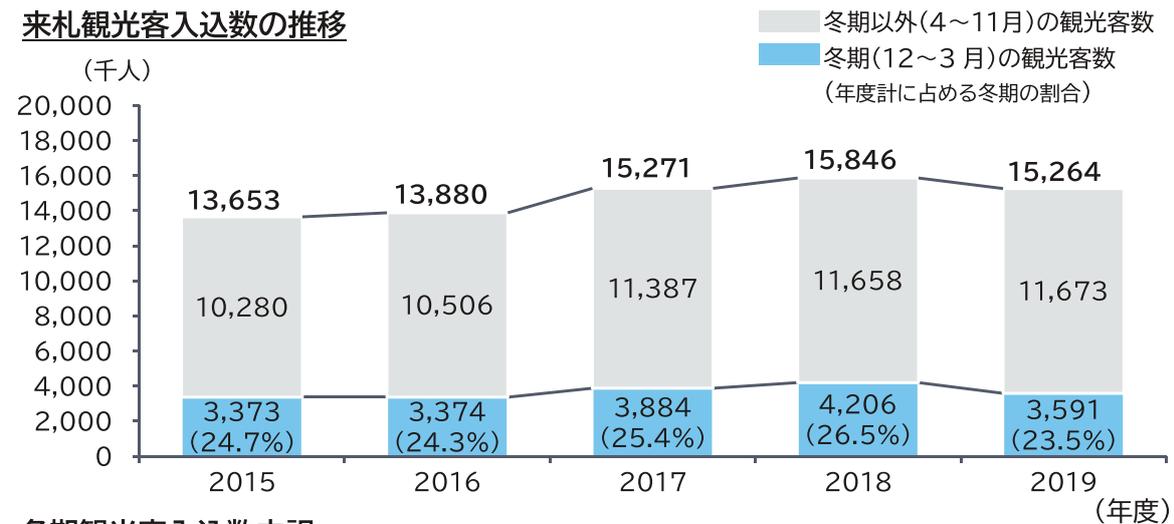


②冬期の来札観光客入込数の状況

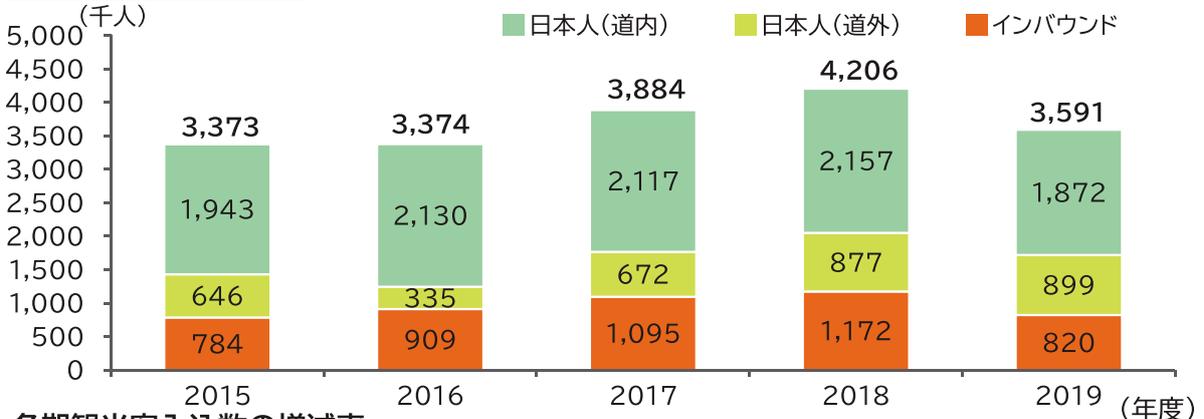
来札観光客入込数は、年間・冬期(12月～3月)ともに順調に増加しており、特に冬期インバウンドは、平成27年度(2015年度)と平成30年度(2018年度)を比較すると、49.5%増と大幅に増加しています。また、年間に占める冬期の観光客入込数の割合も増加傾向にあり、平成30年度(2018年度)には26.5%まで高まっています。

しかしながら、令和元年度(2019年度)は、コロナウイルス等の影響で減少に転じており、令和2年度(2020年度)には、さらなる悪化が見込まれています。

来札観光客入込数の推移

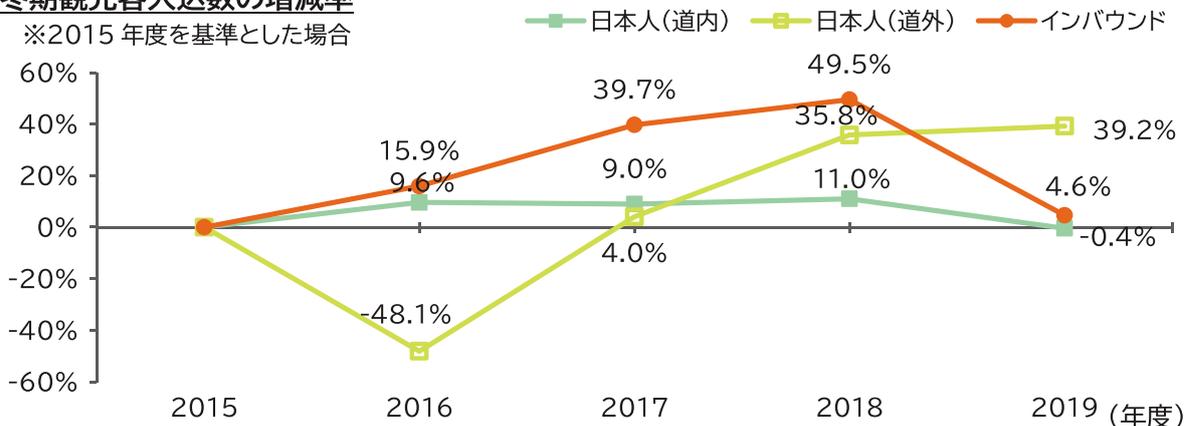


冬期観光客入込数内訳



冬期観光客入込数の増減率

※2015年度を基準とした場合



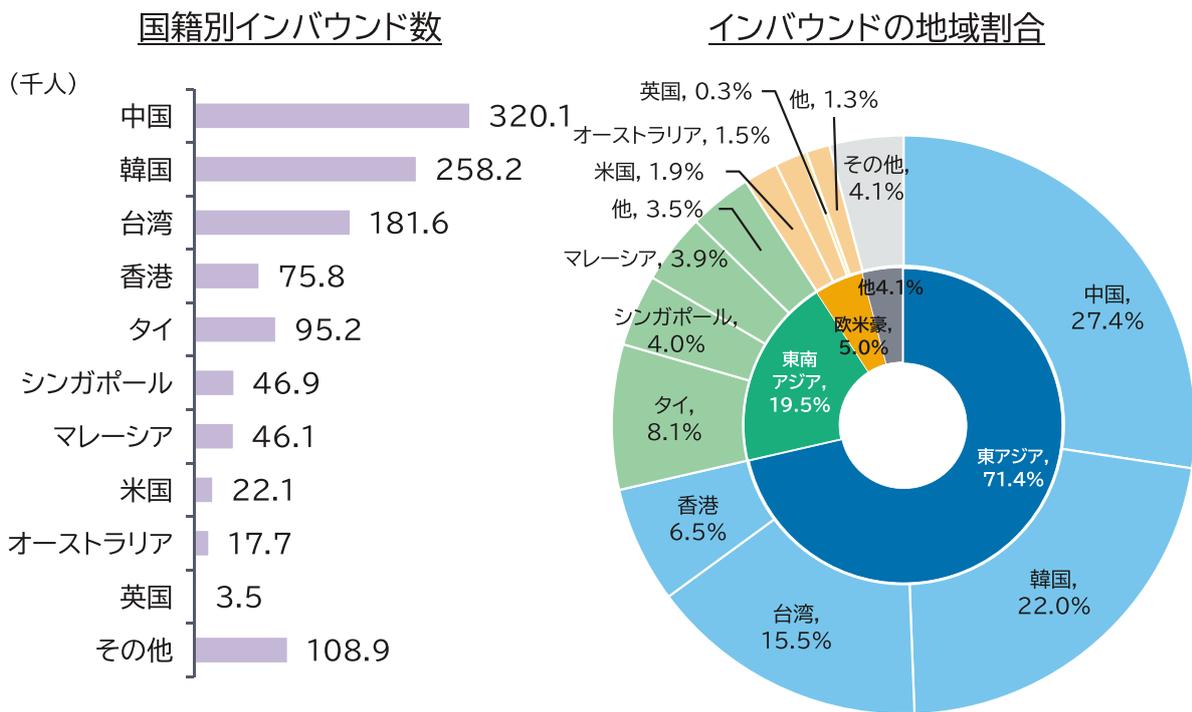
<資料>札幌市「札幌の観光(平成28年度～令和2年度)」

③冬期インバウンドの内訳

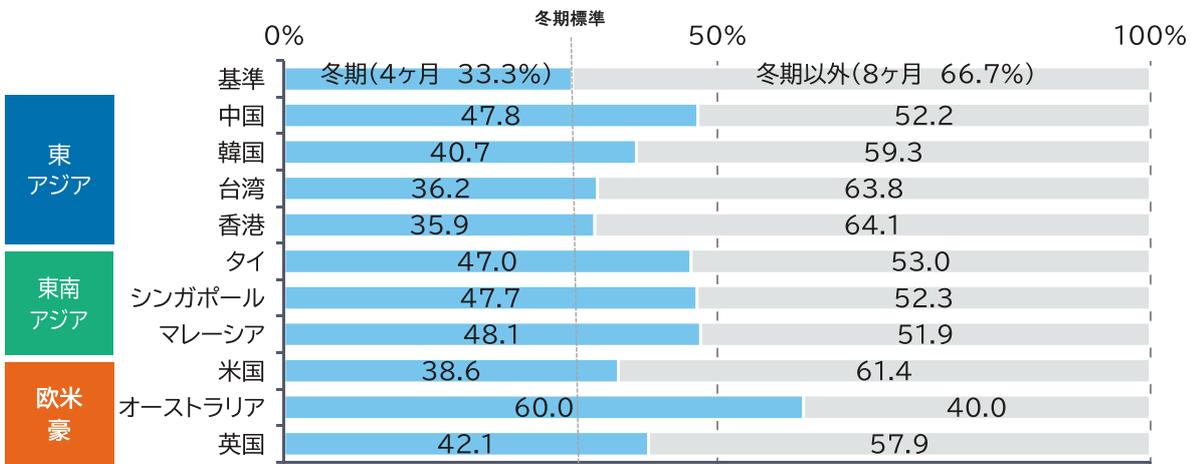
冬期に札幌を訪れているインバウンドの国籍別割合は、中国が1位で 27.4%、次いで韓国 22.0%、台湾 15.5%と東アジアが上位を占めており、東アジアだけで全体の7割以上と高い割合となっています。

また、年間に占める冬期(12月～3月)の割合を国籍別に見ると、オーストラリアや中国、東南アジアのタイ、シンガポール、マレーシアなどが高くなっており、冬期に多く訪れていることが分かります。

2018年冬期(12月～3月)の国籍別インバウンド数と地域割合、期間別割合



インバウンドの期間別割合



<資料>札幌市「札幌の観光(令和元年度)」

④冬期観光客の平均宿泊日数

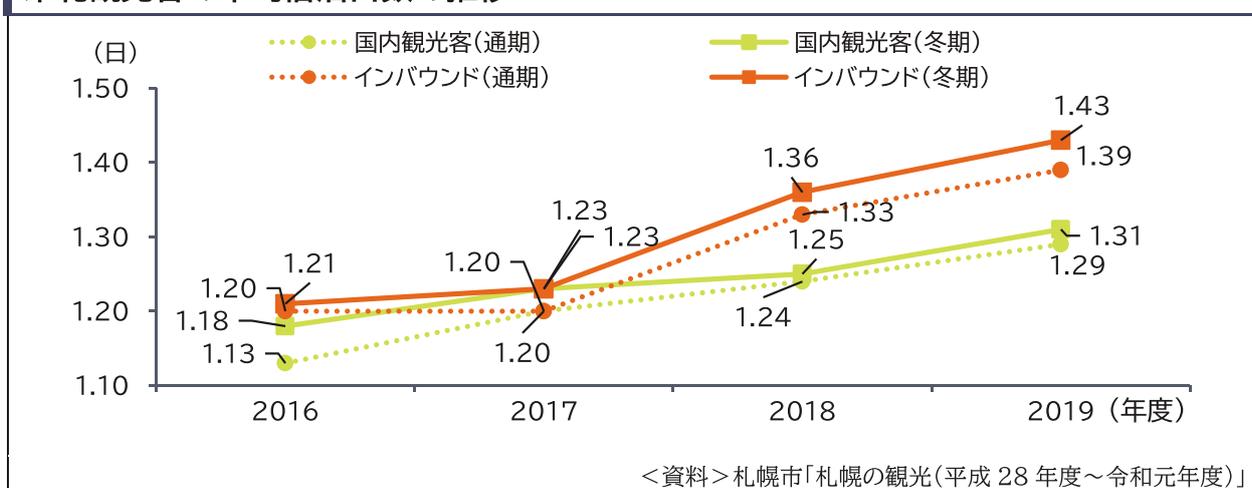
来札観光客の平均宿泊日数は、国内観光客、インバウンドともに、平成 28 年度(2016 年度)以降、毎年着実に増加しています。

通期(4 月～3 月)と冬期(12 月～3 月)の平均宿泊日数を比較すると、国内観光客、インバウンドともに冬期が通期を上回っています。

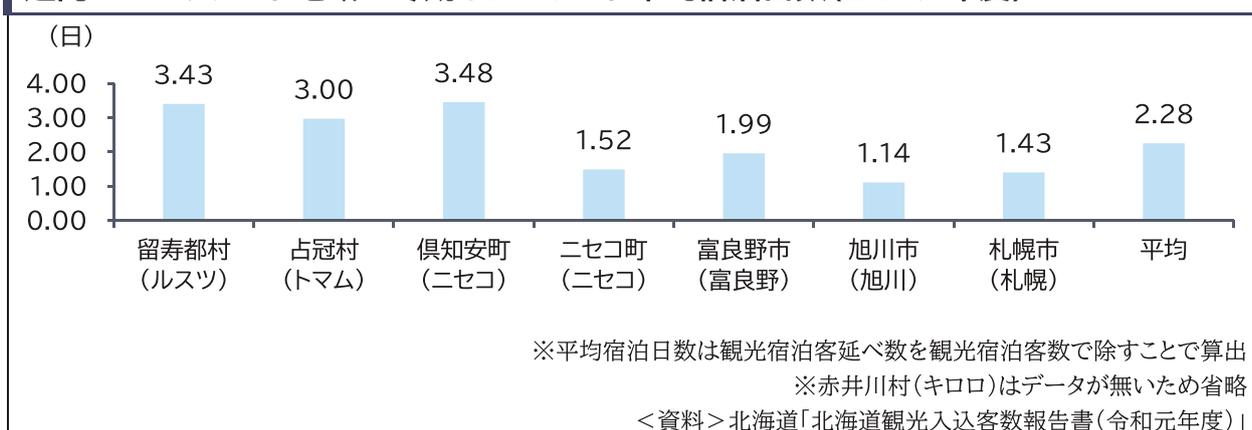
また、国内観光客とインバウンドの平均宿泊日数を比較すると、インバウンドが国内観光客を上回っており、冬期のインバウンドが最も宿泊日数が長くなっています。

しかし、インバウンドの冬期の平均宿泊日数を道内他のスノーリゾート地域と比較すると、札幌の宿泊日数は短いことから、今後さらに増加させる余地があると考えられます。

来札観光客の平均宿泊日数の推移



道内スノーリゾート地域の冬期インバウンド平均宿泊日数(2019 年度)



(2)観光コンテンツ

冬期の札幌には、大通公園、時計台、さっぽろテレビ塔といった年間を通して人気の高い観光スポットのほか、スノーアクティビティ・ウィンタースポーツの体験施設や、雪と夜景のコラボレーションが楽しめる眺望スポット、歴史・芸術・文化に触れることのできる施設など、魅力的な観光コンテンツが多数存在しています。

多くの観光コンテンツは都心部に集中しているものの、冬ならではの体験が可能な施設は比較的郊外に点在していることから、都心部での体験を可能とすることや、宿泊施設や都心部からのアクセス確保が重要となります。

冬期も楽しめる主な観光コンテンツ

分類	名称	No.	分類	名称	No.	
観光スポット	大通公園	①	繁華街 商業施設	狸小路	⑯	
	時計台	②		すすきの	⑰	
	さっぽろテレビ塔	③		サッポロファクトリー	⑱	
	北海道庁旧本庁舎 (赤れんが)	④	歴史・文化・芸術	北海道大学	⑲	
		円山動物園		⑤	千歳鶴酒ミュージアム	⑳
		白い恋人パーク		⑥	札幌市資料館	㉑
温泉	定山溪温泉	⑦		北海道立近代美術館	㉒	
スノー アクティビティ (雪遊び)	羊ヶ丘展望台	⑧		北海道開拓の村	㉓	
	モエレ沼公園	⑨		北海道博物館	㉔	
	サッポロさとらんど	⑩		札幌芸術の森	㉕	
	札幌ドーム	⑪	札幌市アイヌ文化交流センター(ピリカコタン)	㉖		
ウィンター スポーツ	大倉山ジャンプ競技場	⑫	頭大仏(滝野霊園)	㉗		
	オリンピックミュージアム		ラーメン横丁	㉘		
眺望(夜景)	藻岩山	⑬	二条市場	㉙		
	旭山記念公園	⑭	中央卸売市場場外市場	㉚		
	JRタワー展望室	⑮	サッポロビール園	㉛		
		サッポロビール博物館				

観光コンテンツの所在地



①冬期イベント

札幌では、国内外から 200 万人以上の観光客が訪れるさっぽろ雪まつりや、さっぽろホワイトイルミネーションなどの大規模イベント、定山渓における雪を活用したイベントなど、冬期間に雪の魅力を活かしたイベントが開催されています。

イベントの開催時期は、ほとんどのイベントが11月下旬から2月中旬までとなっており、さっぽろ雪まつりが終了する2月中旬以降は、大規模なイベントが開催されていません。

札幌市内の冬期イベント開催スケジュール(2018 年度)

名称	開催場所	11月	12月	1月	2月	3月
さっぽろアートステージ	札幌駅前通地下歩行空間他	◆	◆			
さっぽろ ホワイトイルミネーション	大通公園		◆	◆		
	札幌駅前通り	◆	◆	◆	◆	
	北3条広場(アカプラ)他	◆	◆	◆	◆	◆
ミュンヘン・クリスマス市	大通公園	◆	◆			
定山渓雪三舞	八剣山果樹園			◆	◆	
定山渓温泉雪灯路	定山渓神社			◆	◆	
さっぽろ雪まつり	大通公園・すすきの				◆	◆
	つどーむ				◆	◆

<資料>札幌市公式観光サイト「ようこそ SAPPORO」

②雪体験コンテンツ・ウインタースポーツ施設

札幌市内の観光施設では、様々な雪体験コンテンツを提供しており、観光客が手軽に雪体験を楽しめることは、札幌の冬期観光の大きな魅力であると言えます。

また、市内には、ウインタースポーツ施設が多数存在しており、ウインタースポーツを実際に体験したり、競技大会を観戦したり、札幌オリンピックのレガシーに触れたりするなど、観光客にとっても楽しめる施設となっています。

市内の主な雪体験コンテンツ・ウインタースポーツ施設

施設名称	コンテンツの内容
羊ヶ丘展望台 (羊ヶ丘スノーパーク)	札幌を代表する観光スポットで、チューブそり滑りやスノーライダー、歩くスキーなどが体験できる。
モエレ沼公園	広大な敷地の中で、スノーシューやそり遊びなどが楽しめる。モエレ沼山頂からは札幌の雪景色も眺められる。
サッポロさとらんど	雪上バナナボートやチューブそりが楽しめるほか、トラクター遊覧車や馬そりも体験できる。
札幌ドーム (ゆきひろば)	札幌ドーム敷地内で、スノーラフティングやそり遊び、ミニスキーなどが楽しめる。
滝野すずらん公園 (滝野スノーワールド)	国内最大級のチューブそりコースや、スノーシューでの冬の森探検、歩くスキーなど様々な雪体験が楽しめる。
札幌芸術の森	伝統的なかんじきを履いて、冬の野外美術館を散策し、彫刻などを鑑賞できる「芸森かんじきウォーク」を実施
北海道開拓の村	昔の冬の暮らしを体験するコンテンツを提供。昔の生活道具や、木ソリなどの雪遊び、馬そりなどが体験できる。
大倉山ジャンプ競技場	札幌オリンピックの競技会場であり、現在も国際大会が開催されている。競技の無い日は、リフトに乗って、頂上の「展望ラウンジ」まで移動すれば、ジャンパーの目線を疑似体験できる。
札幌オリンピックミュージアム	札幌オリンピックに関する様々な展示に加えて、シミュレーターで、選手目線でオリンピック競技を体感できる。
どうぎんカーリングスタジアム	通年型カーリング専用施設。レベルに応じた教室を開催しており、用具一式のレンタルも可能
リュージュ競技場 (フッズスノーエリア)	札幌オリンピックの練習コースとして設置されたリュージュ競技場。誰でも参加可能な体験会も実施
スケート場	月寒体育館では、通年でスケートを楽しめるほか、冬は円山競技場の屋外スケート場もオープン。札幌オリンピックの競技会場となった真駒内セキスイハイムアイスアリーナでは、国際大会も開催される。
クロスカントリースキーコース	市内各所でクロスカントリースキーコースが一般開放されており、中島公園では道具の無料レンタルも実施

<資料> 札幌市公式観光サイト「ようこそ SAPPORO」及び各施設の公式ホームページ

③観光施設の冬期来場者数

札幌市内の観光施設には、多くの観光客や市民が年間を通して来場していますが、そのうち冬期(12月～3月)の来場数の割合は下表のとおりとなっています。

全体的に、冬期は通年と比較して来場者数が少ない傾向にありますが、白い恋人パークやサッポロビール博物館、テレビ塔展望台などの屋内観光施設は、冬期の来場者数の割合が高くなっています。

一方で、屋外での雪体験が楽しめるモエレ沼公園、サッポロさくらんど、羊ヶ丘展望台などの屋外観光施設は、冬期の来場者数の割合が低くなっていることから、雪体験コンテンツを目的とした来場者が少ないのが現状です。

主な観光施設の年間と冬期の来場者数比較(2018年度) ※市民も含めたすべての来場者数

(人)			
施設名称	年間来場者数	冬期来場者数	冬期割合
円山動物園	1,009,685	206,472	20.4%
藻岩山	866,986	260,103	30.0%
白い恋人パーク	748,615	268,788	35.9%
モエレ沼公園	705,555	96,185	<u>13.6%</u>
サッポロさくらんど	576,730	32,690	<u>5.7%</u>
滝野すずらん公園	559,706	130,184	<u>23.3%</u>
サッポロビール博物館	490,783	186,228	37.9%
羊ヶ丘展望台	427,907	87,356	<u>20.4%</u>
大倉山ジャンプ競技場	401,574	95,931	23.9%
テレビ塔展望台	393,840	154,944	39.3%
札幌芸術の森	351,955	32,979	<u>9.4%</u>
時計台	224,840	64,831	28.8%
札幌オリンピックミュージアム	127,085	31,387	24.7%

※冬期来場者数は12月～3月の来場数の合計

※白い恋人パーク、時計台は、2018年度にリニューアルによる休館があったため、2017年度実績を使用

<資料>札幌市「札幌の観光(平成30年度)」

(3)観光インフラ

①宿泊施設

市内宿泊施設(ホテル・旅館・簡易宿所)は近年増加傾向にあり、特に直近2年間で大幅に増加した結果、令和元年度(2019年度)末現在の客室数は32,004室、定員数は66,583人となっています。また、民泊施設についても、2,359施設が登録されています。

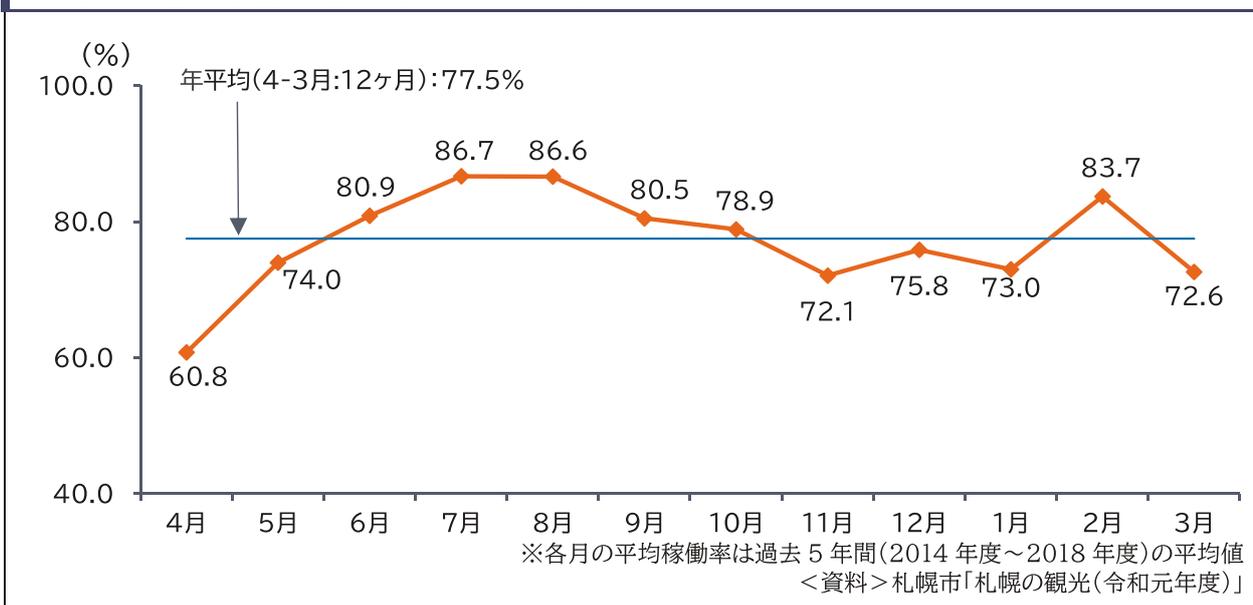
施設規模や価格帯の異なる多種多様な宿泊施設が集積し、幅広いニーズに対応していますが、富裕層向けのハイグレードホテルについては、更なる充実が必要な状況です。

市内宿泊施設の冬期(12月～3月)の平均稼働率は、さっぽろ雪まつりが開催される2月以外は、年平均稼働率(77.5%)を下回っており、夏のピーク時から比較すると10ポイント以上低くなっています。

市内宿泊施設の客室数・定員数の推移



市内宿泊施設月別平均稼働率(5年平均)



②商業施設

札幌市内の商業・飲食施設の数 は 20,000 店舗以上で、北海道内の約3割が集中しており、国内の他のスノーリゾート地域と比較すると、札幌が突出している状況です。

よって、商業・飲食施設が充実しており、飲食、ショッピング等のアフタースキーの選択肢が圧倒的に豊富であることが、他のスノーリゾート地域にはない札幌の大きな強みです。

国内スノーリゾート地域との商業・飲食施設数の比較

※商業・飲食施設の統計データは平成 28 年(2016 年)のデータ

地域	自治体	小売店数	飲食店数	大型小売店数
札幌	札幌市	11,197	8,502	355
旭川	旭川市	2,612	1,743	65
白馬	白馬村、大町市、小谷村	421	305	4
富良野	富良野市	256	150	3
二セコ	倶知安町、二セコ町	213	170	2
安比高原	八幡平市	260	78	3
湯沢	湯沢町	104	97	1
野沢温泉	野沢温泉村	56	49	0

※小売店数:個人用又は家庭用消費のために商品を販売及び産業用使用者に少量又は少額に商品を販売する店の数。

飲食店数:客の注文に応じ調理した飲食料品、その他食料品、アルコールを含む飲料をその場所で飲食させる店の数。

大型小売店数:民営の小売業事業所のうち、50 人以上の従業者を有する事業所の数。

<資料>内閣府統計局「政府統計 社会・人口統計体系 統計でみる市区町村のすがた(居住)(令和元年度)」

③観光情報

札幌には、観光客向けの札幌観光の情報発信ツールとして、公式観光ウェブサイト「ようこそ SAPPORO」、札幌市の公式アプリやツイッター、各エリアの観光協会のウェブサイトなどがあり、その多くが多言語化されています。

また、札幌駅構内に観光案内所を設置し、外国語対応可能なスタッフが常駐しており、インバウンドを含めた観光客への情報提供や各種案内を行っています。

札幌の観光情報発信ツール

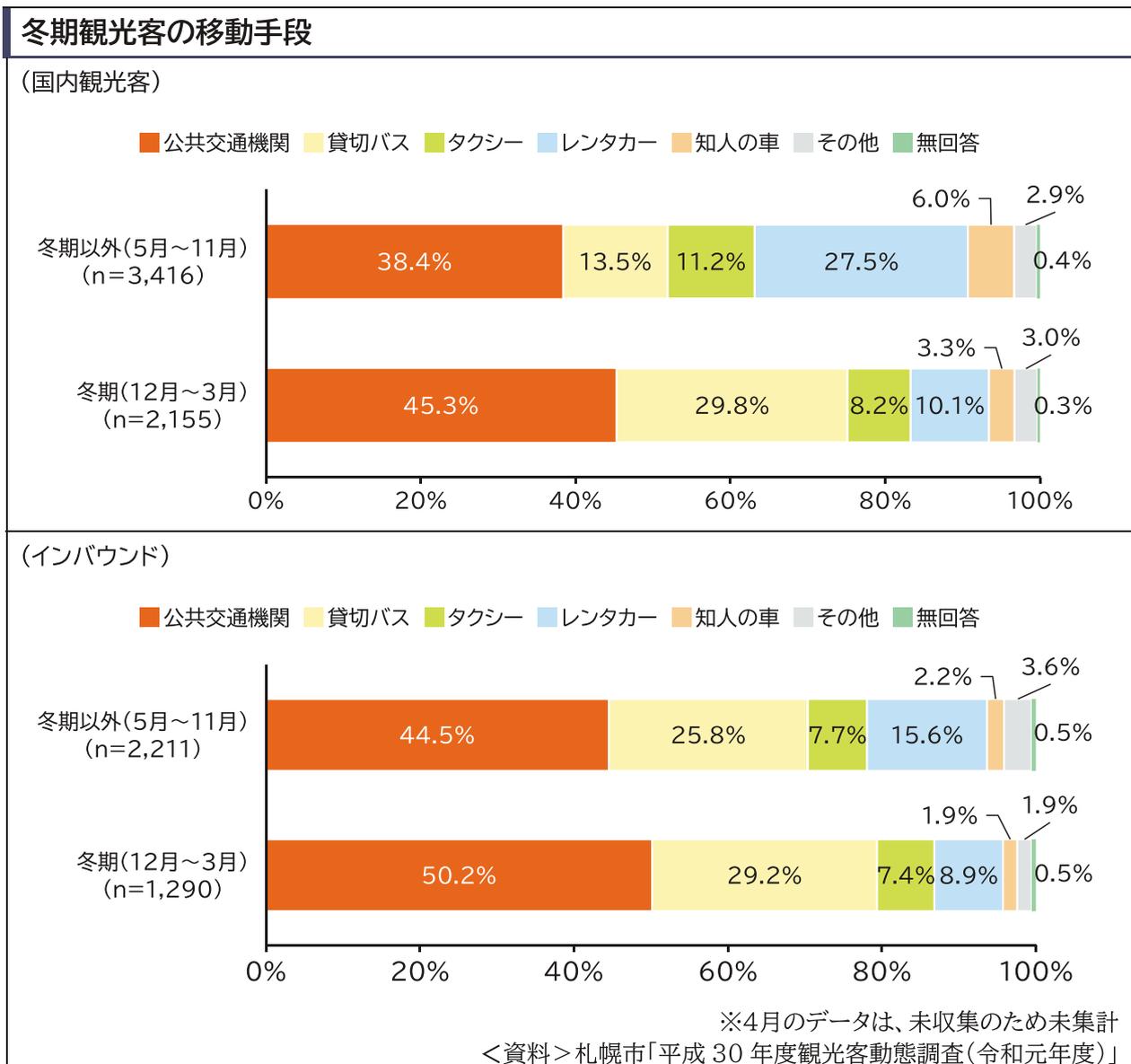
名称(実施主体)	媒体	対応言語	備考
ようこそ SAPPORO(札幌観光協会)	ウェブサイト	7 言語(日、英、簡、繁、韓、タイ、インドネシア)	札幌観光の公式サイトとして、札幌の楽しみ方や、観光施設、グルメ、イベント、宿泊施設等の情報を発信
	Facebook	2 言語(日、英)	
札幌いんふお(札幌市)	アプリ	6 言語(日、英、簡、繁、韓、タイ)	札幌の公式観光アプリ。位置情報と連動した情報発信
札幌市観光・MICE 推進部公式ツイッター(札幌市)	Twitter	1 言語(日)	札幌市役所からの観光情報発信
SAPPORO NIGHT VIEW GUIDE(札幌夜景観光推進協議会)	ウェブサイト	4 言語(日、英、簡、繁)	札幌夜景に関する情報発信
サッポロナイトパッケージ(札幌商工会議所)	ウェブサイト	5 言語(日、英、簡、繁、韓)	札幌の夜間観光に関する情報発信
定山溪観光協会公式サイト(定山溪観光協会)	ウェブサイト	5 言語(日、英、簡、繁、韓)	定山溪エリアの観光施設、宿泊施設、イベント等の情報発信
	Facebook	1 言語(日)	
すすきの観光協会オフィシャルサイト(すすきの観光協会)	ウェブサイト	1 言語(日)	すすきのエリアの飲食店、イベント等の情報発信

(4)観光客の移動手段

札幌は、人口約 200 万人の移動を支えるため、公共交通機関(地下鉄、JR、バス、市電)が充実しており、観光客の移動手段には多様な選択肢があります。

来札観光客へのアンケート結果によると、観光客の移動手段は、公共交通機関を利用する割合が最も高く、さらに国内観光客よりもインバウンドのほうが、その割合が高くなっています。

また、冬期(12月～3月)と冬期以外(5月～11月)を比較すると、冬期は、公共交通機関と貸切バスを利用する割合が高まり、レンタカーの割合が低くなる傾向にあることから、冬期における公共交通機関や貸切バス等の利便性向上が重要になるものと考えられます。



2. 市内スキー場の現状分析

(1) 市内スキー場の基礎情報

札幌市内には、サッポロテイネ、札幌国際スキー場(以下「札幌国際」という。)、さっぽろばんけいスキー場(以下「さっぽろばんけい」という。)、札幌藻岩山スキー場(以下「札幌藻岩山」という。)、フッズスノーエリア、滝野スノーワールドの6つのスキー場(以下「市内6スキー場」という。)が存在しています。

市内6スキー場は、それぞれゲレンデ規模やコースレイアウトなどの特徴が異なることから、多様な魅力を備えた6つのスキー場の中から、利用者がニーズやスキーレベルに応じて自分にあったスキー場を選択できることが、札幌の強みであると考えられます。

また、市内6スキー場は、すべて都心部から車で60分以内の距離にあり、大都市の都心部に近いことも札幌のスキー場の大きな強みです。ただし、アクセスについては、すべてのスキー場に公共交通機関でアクセス可能であるものの、宿泊施設や都心部からスキー場にダイレクトにアクセスできる交通手段が少ないため、乗り換えに手間や時間がかかるといった問題もあります。

各スキー場では、近年増加しているインバウンドに対応するため、多言語化や受入環境整備に取り組んでいますが、先進的に取り組んでいる他のスノーリゾートと比較すると、更なるインバウンド対応の充実が求められるものと考えられます。

市内6スキー場位置図



都心部から市内6スキー場への交通アクセス

スキー場	都心部からのアクセス			
	車	公共交通機関		
		時間	手段	バス本数
サップロティネ	約40分	約25分	札幌駅⇒手稲駅(JR約10分) 手稲駅⇒スキー場(バス約15分)	往路:6便 復路:7便
札幌国際	約60分	約90分	札幌駅⇒(定山溪)⇒スキー場(バス約90分) ※定山溪温泉からバス約30分	往路:6便 復路:6便
さっぽろ ばんけい	約20分	約25分	大通駅⇒円山公園駅(地下鉄約5分) 円山公園駅⇒スキー場(バス約20分)	往路:21便 復路:24便
札幌藻岩山	約30分	約40分	大通駅⇒真駒内駅(地下鉄約20分) 真駒内駅⇒スキー場(バス約20分)	往路:34便 復路:34便
フッズ スノーエリア	約40分	約50分	大通駅⇒真駒内駅(地下鉄約20分) 真駒内駅⇒スキー場(送迎バス約30分)	往路:5便 復路:6便
滝野 スノーワールド	約50分	約50分	大通駅⇒真駒内駅(地下鉄約20分) 真駒内駅⇒スキー場(バス約30分)	往路:9便 復路:8便

※公共交通機関の時間は乗り換え時間等を考慮していない(札幌市調べ)

市内6スキー場の基礎情報

基礎情報	サップロティネ	札幌国際	さっぽろばんけい	札幌藻岩山	フッズスノーエリア	滝野スノーワールド	
ゲレンデ情報	標高	1,023m	1,100m	482m	531m	563m	250m
	リフト数	10 (ゴンドラ1, リフト9)	4 (ゴンドラ1, リフト3)	6 (リフト6)	5 (リフト5)	3 (リフト3)	1 (リフト1)
	最長滑走距離	6,000m	3,600m	1,250m	2,620m	1,800m	250m
	コース数・レベル	コース数:15 上級:30% 中級:40% 初級:30%	コース数:7 上級:20% 中級:50% 初級:30%	コース数:17 上級:25% 中級:25% 初級:50%	コース数:10 上級:30% 中級:30% 初級:40%	コース数:6 上級:30% 中級:40% 初級:30%	コース数:1 初級:100%
	最大斜度	38°	30°	33°	38°	38°	7°
	営業期間	11月下旬～ 5月上旬	11月下旬～ 5月上旬	12月上旬～ 3月末	12月中下旬～ 3月末	12月中下旬～ 3月末	12月下旬～ 3月末
	キッズパーク	有	有	有	有	有	有
	ナイター	有	無	有	有	有	無
	チケット代 (1日券)	5,400円	4,600円	4,500円	3,800円 (7時間券)	3,000円	2,040円
	ICゲート	有	有	無	無	無	無
インバウンド対応	情報発信	英・中・韓	英・中	英・中・韓	英・中・韓	英・中・韓・露	英
	スタッフ	有	有	有	有	無	有
	レッスン	有	有	有	有	無	無
	フリーWiFi	有	有	有	無	有	有
	キャッシュレス	有	有	有	無	有	無

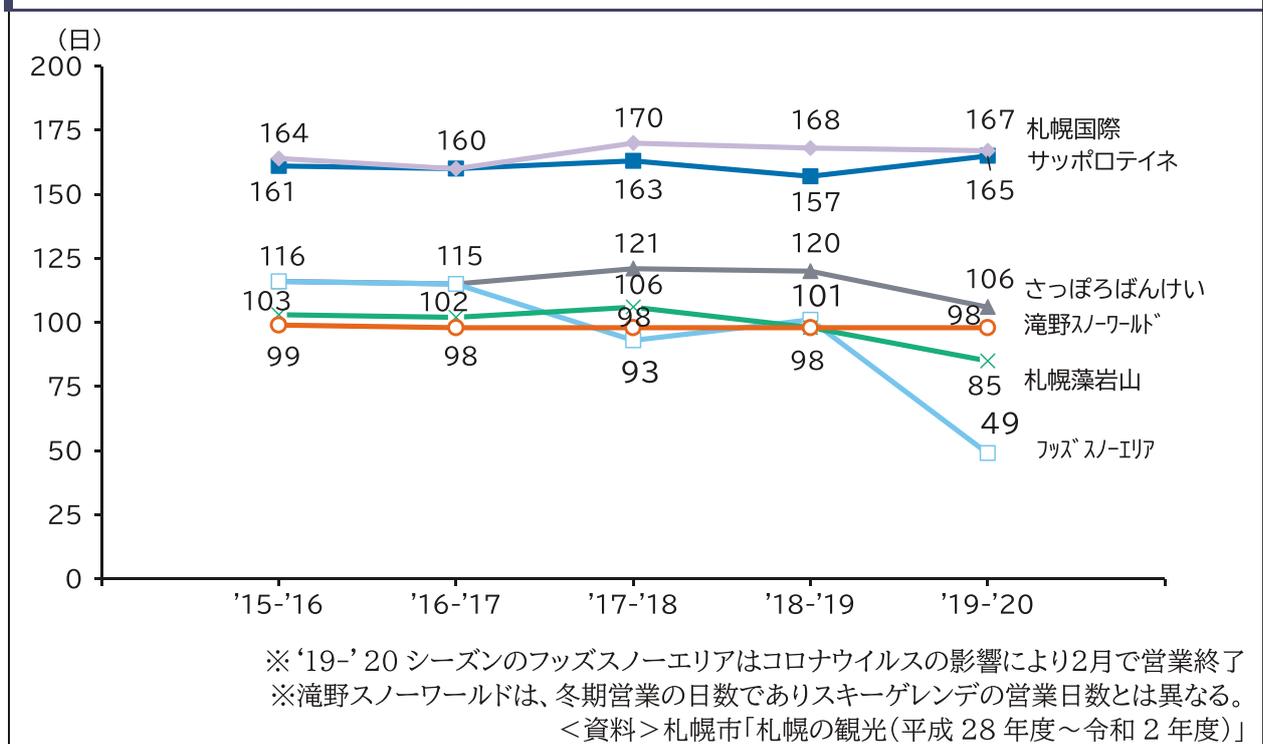
<資料>札幌市「スノーリゾート推進に係る基礎調査(令和元年度)」

(2) 営業日数の推移

市内6スキー場のうち、標高が高く、積雪量が豊富なサッポロテイネと札幌国際は、毎年安定的に、11月下旬から5月上旬までの長期間にわたって営業しています。

残りの4スキー場は、12月から3月末までが基本的な営業期間となっていますが、近年は雪不足の影響により営業開始が遅くなり、営業日数が減少傾向にあります。

市内6スキー場の営業日数の推移(過去5シーズン)



(3) 利用者の状況

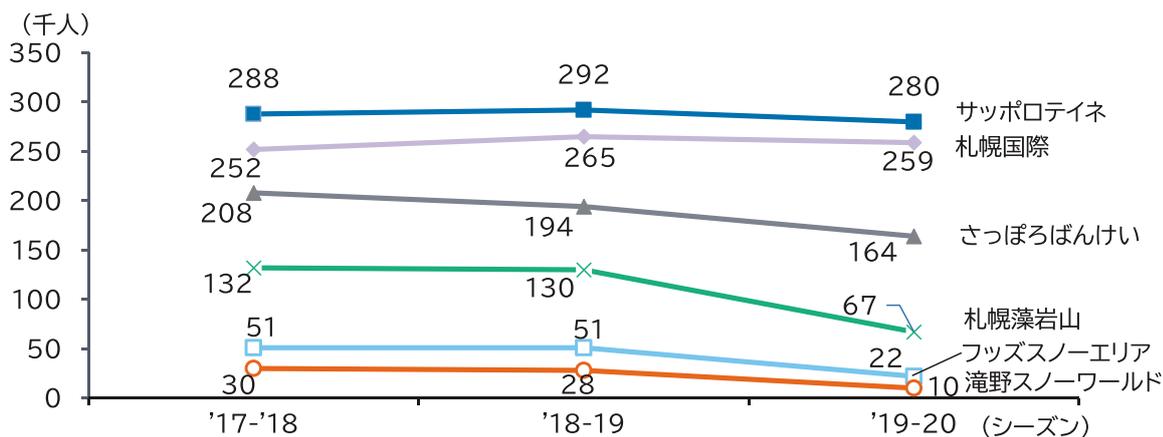
① 利用者数(リフト券販売数ベース)

市内6スキー場の利用者数は、サッポロテイネ、札幌国際、さっぽろばんけい、札幌藻岩山、フッズスノーエリア、滝野スノーワールドの順で多くなっており、直近3年間で順位に変動はありません。

過去2年間(17-18、18-19)の利用者数推移は、サッポロテイネ、札幌国際は増加傾向、その他の4スキー場は横ばいから減少傾向となっています。

18-19シーズンには、6スキー場全体で約96万人の来場者数でしたが、19-20シーズンには、コロナウイルスの影響と雪不足による営業期間短縮の影響が重なった結果、6スキー場ともに前年度よりも減少し、全体で約80万人にまで落ち込んでおり、特にさっぽろばんけい、札幌藻岩山、フッズスノーエリア、滝野スノーワールドは、大幅な落ち込みとなっています。

市内6スキー場利用者数の直近3年間の推移(チケット販売ベース)



<資料> 札幌市調べ(令和元年度)

②利用者属性

市内6スキー場利用者の内訳は、8割程度が市民、1割程度が道内外の日本人、残りの1割程度がインバウンドであると推定されています。

スキー場別のインバウンドの割合は、サッポロテイネと札幌国際が15.0%程度、さっぽろばんけい、札幌藻岩山、滝野スノーワールドが5.0%程度、フッズスノーエリアについては2.0%程度と推定されています。

インバウンドの多くは未経験者と初級者ですが、サッポロテイネと札幌国際には上級者も多く、さっぽろばんけいや札幌藻岩山にも上級者や中級者が来場しています。

市内6スキー場のインバウンド利用者の属性

スキー場	インバウンド割合	国籍別内訳	スキー技術度
サッポロテイネ	15.0%程度	東アジアが最も多く、次に東南アジア 欧米豪も一定数来場しており、特に欧州が多いのが特徴	未経験者から上級者まで幅広く来場 特に、上級者が多いのが特徴
札幌国際	15.0%程度	東アジアが最も多く、次に東南アジア 欧米豪も一定数来場	未経験者から上級者まで幅広く来場 特に、上級者が多いのが特徴
さっぽろばんけい	5.0%程度	東アジアと東南アジアが同程度来場 欧米豪も一定数来場しており、特に北米が多いのが特徴	未経験者と初級者が中心だが、上級者も来場
札幌藻岩山	5.0%程度	東アジアが中心だが、東南アジアも一定数来場 オーストラリアの来場も確認できる	未経験者と初級者が中心だが、中級者も一定数来場
フッズスノーエリア	2.0%程度	東アジアが大多数を占める	未経験者と初級者のみ 特に未経験者が大多数を占めるのが特徴
滝野スノーワールド	5.0%程度	アジア圏が大多数を占める。 特に東南アジアが多いのが特徴	未経験者と初級者のみ 特に未経験者が大多数を占めるのが特徴

<資料> 札幌市「スノーリゾート推進に係る基礎調査(令和元年度)」
インバウンド割合は札幌市調べ(令和元年度)

(4)施設の状況

市内6スキー場に設置されているリフト・ゴンドラの6割以上が築30年以上となっており、老朽化が進んでいる状況にあると言えます。

また、リフト・ゴンドラ以外の施設については、サッポロテイネではオリンピックスキーセンターの新設、ローディングカーペットやスノーエスカレーターを設置、札幌国際ではICゲートの導入やスノーエスカレーターを設置、さっぽろばんけいではハーフパイプ増設やコース改良など、新設・更新の動きが出てきています。

市内6スキー場のゴンドラ・リフトの築年数

スキー場	リフト・ゴンドラの築年数内訳(基)				直近5年間の更新数
	10年未満	10～19年	20～29年	30年以上	
サッポロテイネ	0	2	2	6	無し
札幌国際	1	0	3	0	1基(H28)
さっぽろばんけい	1	0	0	5	1基(H27)
札幌藻岩山	0	0	0	5	無し
フッズスノーエリア	1	0	0	2	1基(H29)
滝野スノーワールド	0	0	1	0	無し
合計 (全体に占める割合)	3 (10%)	2 (7%)	6 (21%)	18 (62%)	

<参照>札幌市調べ(令和元年度)

(5)市内スキー場のプロモーション及び認知度

①市内スキー場のプロモーション

市内各スキー場では、国内向けには、ウェブサイトでの情報発信、新聞・テレビ等のメディア活用、学校等へチラシ配付などを実施しており、インバウンド向けには、海外OTA¹²を活用した旅行商品販売、海外の商談会への参加などの取組を行っています。

また、市内6スキー場を含む道内の多くのスキー場が加盟している北海道索道協会や、道内13のスキー場(市内はサッポロテイネ、札幌国際、さっぽろばんけい)が加盟している北海道スキープロモーション協議会(幹事会事務局:公益社団法人北海道観光振興機構)において、道内スキー場が連携したプロモーションに取り組んでいます。

このように、各スキー場単独または北海道全体としてのプロモーションに取り組んでいるものの、市内6スキー場が一体となった「札幌」としてのプロモーションは実施できていないのが現状です。

¹² 【OTA】Online Travel Agent の略語で、インターネット上で取引を行う旅行会社のこと。

②市内スキー場認知度

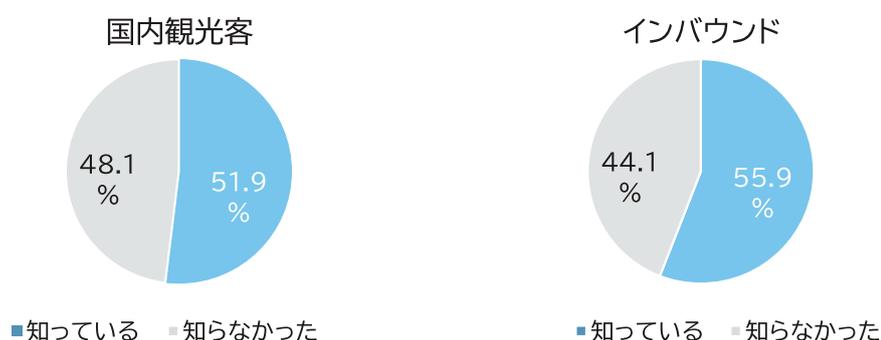
札幌を訪れた観光客のうち、市内にスキー場があることを知っている割合は、国内観光客で51.9%、インバウンドで55.9%であり、半数近くが市内にスキー場があること自体を認知していない状況であり、観光客への情報発信が不足していると考えられます。

また、市内にスキー場があることを知っている観光客の各スキー場に対する認知度は、札幌国際が最も高く、次にサップロテイネと札幌藻岩山が続き、さっぽろばんけい、滝野スノーワールド、フッズスノーエリアの順となっています。最も認知度の高い札幌国際でも、インバウンドの認知度は5割以下であり、市内各スキー場の観光客への認知度は総じて低いことから、今後、改善が必要であると考えられます。

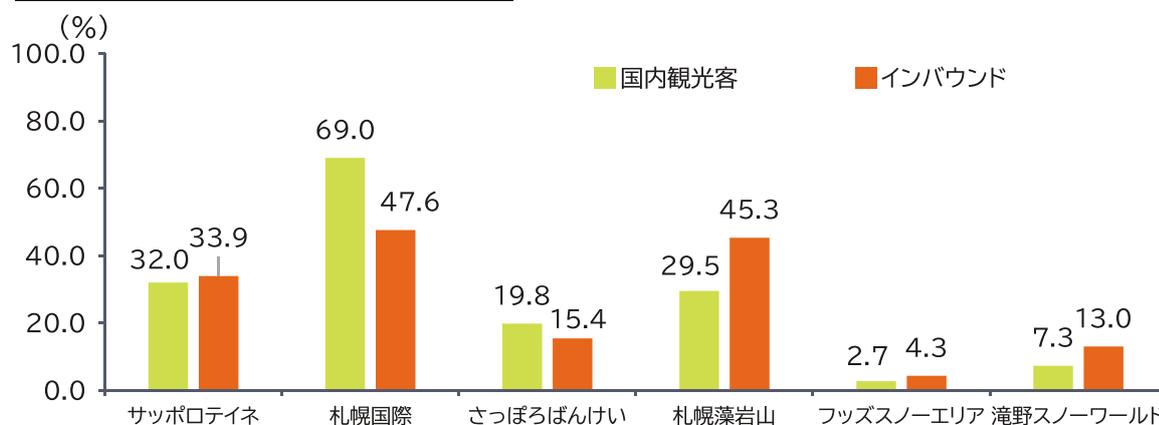
なお、令和元年度(2019年度)に実施した海外エージェントに対する日本のスキー場の認知度調査によると、ニセコや白馬、富良野などが圧倒的な認知度を誇っていますが、札幌国際もこれらに匹敵する認知度が確認されており、サップロテイネ、さっぽろばんけい、札幌藻岩山も一部のエージェントには認知されていることが確認されました。今後は、海外エージェントへのプロモーションを強化することで、インバウンドの更なる誘客が期待できます。

市内スキー場の認知度

来札観光客が市内にスキー場があることを知っている割合



来札観光客の市内スキー場別の認知度



※市内にスキー場があることを知っている人のうち、各スキー場を知っている人の割合
 <資料>札幌市「来札観光客満足度調査・外国人個人観光客動態調査(令和元年度)」

3. 冬期観光客の現状分析

(1) 来札目的

冬期に札幌を訪れたインバウンドの来札目的は、さっぽろ雪まつりや雪景色・景観が高い割合を占めており、食や買い物、温泉といった観光目的に加えて、雪の魅力が札幌を訪れる目的となっていることが伺えます。

しかし、ウインタースポーツや雪遊びを目的とする割合は、全体の2割程度にとどまっており、東アジアよりも東南アジアやアメリカ・オーストラリアが高い割合となっています。

次に、市内スキー場を訪れたインバウンドの来札目的を見ると、スキーが主目的なのは全体で4割程度となっており、観光を主目的として来札し、ついでにスキー場を訪れるニーズが高いことが伺えます。

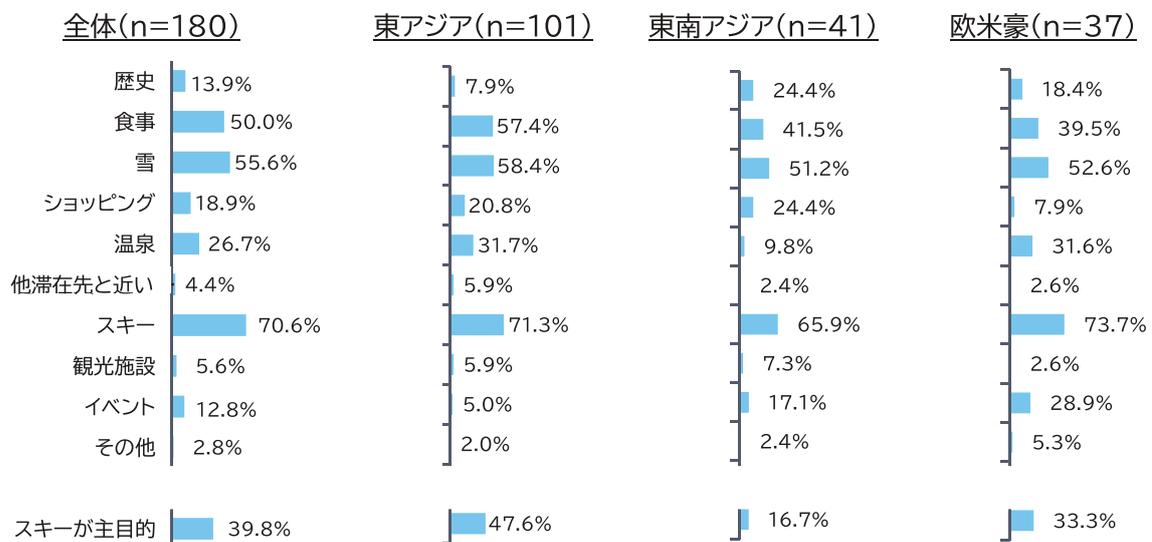
冬期インバウンドの来札目的

インバウンドの札幌滞在中の目的・楽しみ(雪まつり期間中の来札観光客へのアンケート。該当する3つを選択)

	さっぽろ雪まつり	美味しいもの	買い物	温泉	雪景色・景観	夜景	ウインタースポーツや雪遊び	ドライブ	歴史	芸術・文化交流	地元住民との交流	その他
全体	82.3	52.3	25.1	39.8	46.5	14.0	20.0	2.3	7.6	3.0	1.2	
中国	65.8	54.1	25.2	52.3	56.8	17.1	20.7	3.6	8.1	5.4	0.0	
香港	77.7	57.1	33.0	49.1	39.3	8.9	19.6	1.8	1.8	0.9	0.9	
台湾	81.2	53.8	28.2	37.6	46.2	16.2	20.5	3.4	8.5	4.3	1.7	
韓国	89.5	71.4	20.0	37.1	52.4	16.2	3.8	1.9	2.9	0.0	2.9	
タイ	90.9	18.2	18.2	45.5	27.3	0.0	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
シンガポール	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
アメリカ合衆国	96.4	32.1	7.1	14.3	32.1	7.1	32.1	0.0	7.1	0.0	3.6	
オーストラリア	96.3	22.2	22.2	29.6	51.9	7.4	29.6	0.0	18.5	11.1	0.0	
その他	98.0	33.3	21.6	23.5	37.3	15.7	31.4	2.0	19.6	3.9	0.0	

<資料>札幌市「外国人個人観光客動態調査」(平成30年度)

市内スキー場を訪れたインバウンドの来札目的(複数回答)



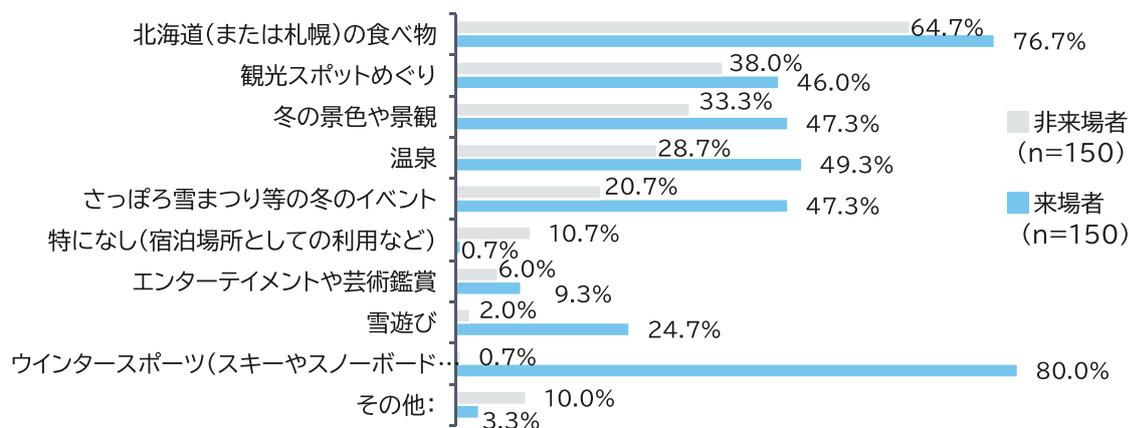
<資料>札幌市「スノーリゾート推進に係る基礎調査(令和元年度)」

道外観光客の来札目的は、市内スキー場来場者、非来場者ともに、食や観光スポット、温泉等が高い割合を占めており、宿泊場所として立ち寄るだけでなく、札幌での周遊観光を楽しみたいというニーズが確認できます。

また、スキー場来場者は他のコンテンツへの関心も高く、スキー場非来場者よりも、アクティブに観光を楽しむ傾向にあることが伺えます。

道外観光客の来札目的

道外観光客の札幌滞在の目的(市内スキー場来場者と非来場者の比較)



<資料>札幌市調べ(道外観光客へのアンケート調査)(令和2年度)

(2)行動特性

冬期に札幌を訪れたインバウンドの宿泊日数は、旅行全体の宿泊日数と札幌での宿泊日数に大きな差があることから、札幌の滞在の前後で各地に周遊していることが伺えます。

また、市内スキー場を訪れたインバウンドに対する調査でも同様の結果が見られますが、スキー場来場者のほうが、札幌での滞在が長くなる傾向にあります。

この傾向は、道外観光客についての調査でも、同様に確認されており、市内スキー場を訪れる観光客を増やすことで、札幌での滞在日数を長期化できる可能性があると考えられます。

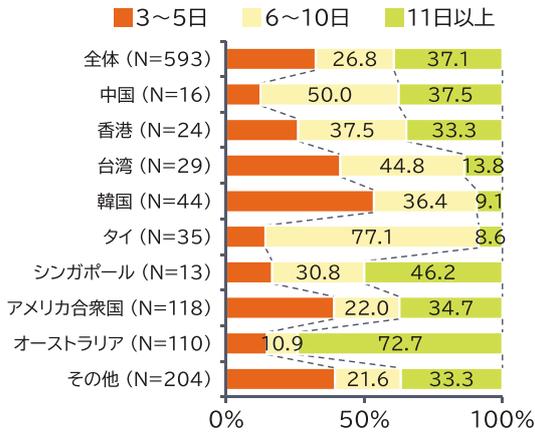
次に、道内での周遊状況については、インバウンド、道外観光客ともに小樽、函館といった観光地や空港のある千歳の割合が高くなっていますが、インバウンドや市内スキー場を訪れた道外観光客は、ニセコへの周遊割合が高いのが特徴的です。

なお、道外観光客について、市内スキー場来場者と非来場者を比較すると、スキー場来場者のほうが他地域を訪問している割合が高く、道内周遊のニーズが高いことが伺えます。

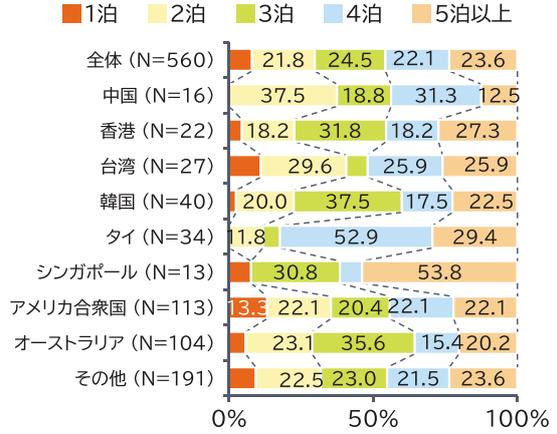
来札観光客の宿泊日数

インバウンドの宿泊日数

旅行全体の宿泊日数



うち、札幌での宿泊日数

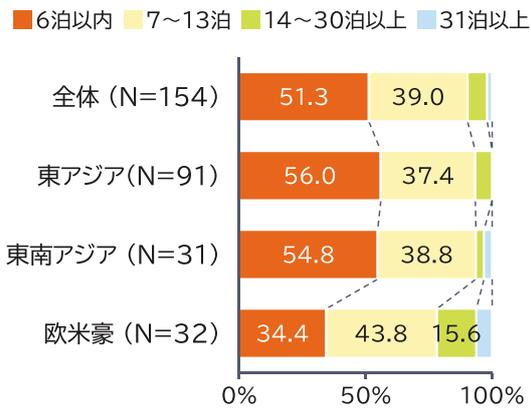


※属性割合が10%以下の場合、非表記

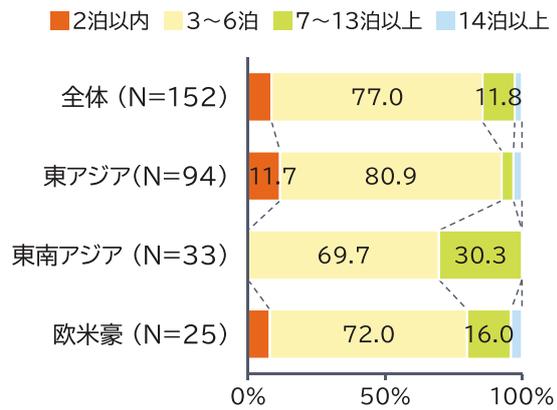
<資料>札幌市「外国人個人観光客動態調査(令和元年)」

市内スキー場を訪れたインバウンドの宿泊日数

旅行全体の宿泊日数



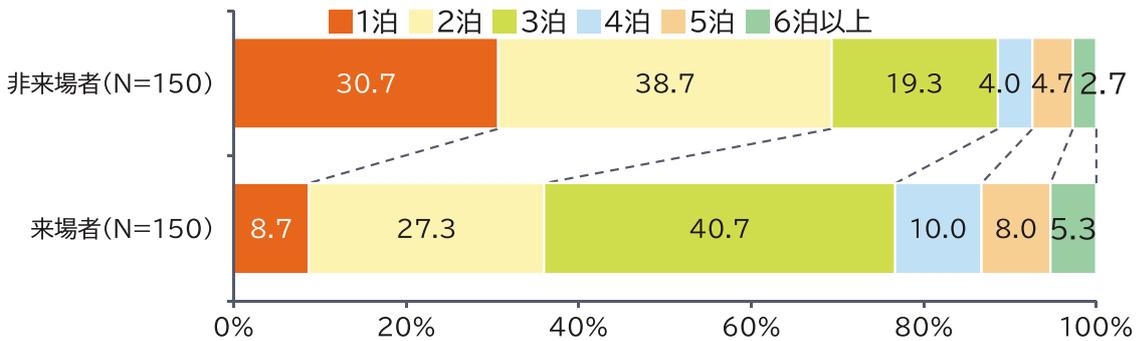
うち、札幌での宿泊日数



※属性割合が10%以下の場合、非表記

<資料>札幌市「スノーリゾート推進に係る基礎調査(令和元年度)」

道外観光客の市内宿泊日数(市内スキー場来場者と非来場者の比較)



<資料>札幌市調べ(道外観光客へのアンケート調査)(令和2年度)

第1章

第2章

第3章

第4章

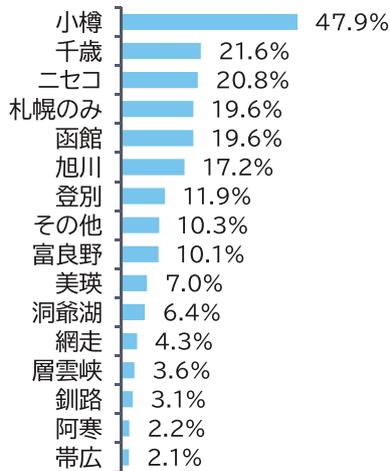
第5章

第6章

資料

来札観光客の道内周遊先

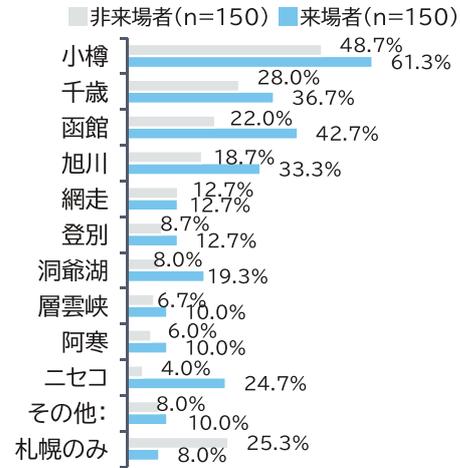
インバウンドの道内周遊先



<資料> 札幌市「外国人個人観光客動態調査」
(令和元年度)

道外観光客の道内周遊先

(市内スキー場来場者と非来場者の比較)



<資料> 札幌市調べ(道外観光客へのアンケート調査)
(令和2年度)

(3) スキー属性・ニーズ

札幌を訪れた国内観光客が、市内でウィンタースポーツ・スノーアクティビティ等を楽しんだ割合(実施率)は2割以下と低くなっています。また、札幌を訪れたインバウンドのうち、旅行中にウィンタースポーツ・スノーアクティビティ等を楽しんだ割合も5割以下となっており、スノーリゾートとしてのブランド化を目指すには、この実施率の向上が不可欠な状況です。

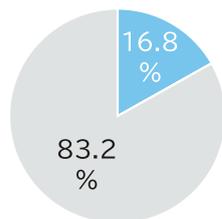
次に、インバウンドのスキー技術度については、東アジア・東南アジアのほとんどが未経験者または初級者である一方、欧米・オセアニアは7割以上が中上級者となっています。

また、市内スキー場を訪れたインバウンドのうち、スキー・スノーボードを楽しんでいない割合が、東アジアで1割程度、東南アジアでは4割程度あることから、スキー・スノーボード以外の目的でスキー場を訪れるニーズが、一定数存在していると言えます。

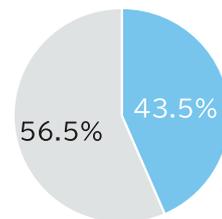
スキー場へのアクセス方法は、道外観光客はレンタカーが最も多く、直行・送迎バスの利用も多くなっていますが、インバウンドは公共交通機関が高い割合を占めています。

来札観光客のうちウィンタースポーツ・スノーアクティビティ等を楽しんだ割合

国内観光客(市内で楽しんだ割合)



インバウンド(市外も含め旅行中に楽しんだ割合)

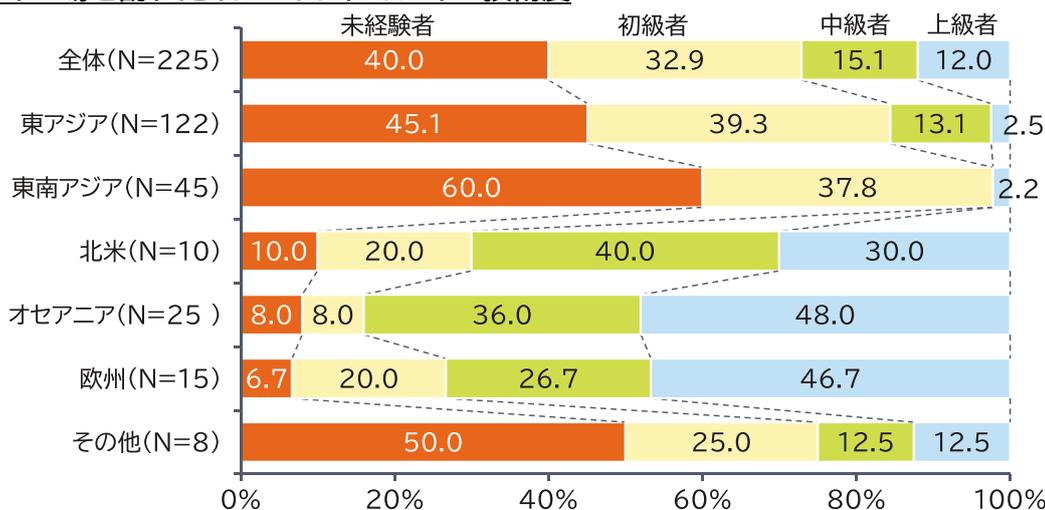


■楽しんだ ■楽しんでいない ■楽しんだ(予定含む) ■楽しんでいない

<資料> 札幌市「来札観光客満足度調査・外国人個人観光客動態調査(令和元年度)」

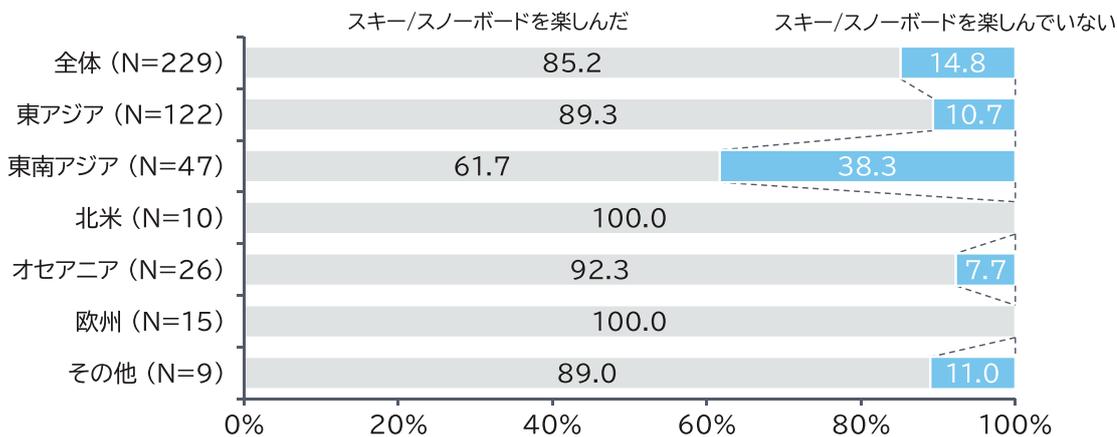
市内スキー場を訪れた観光客の属性

市内スキー場を訪れたインバウンドのスキー技術度



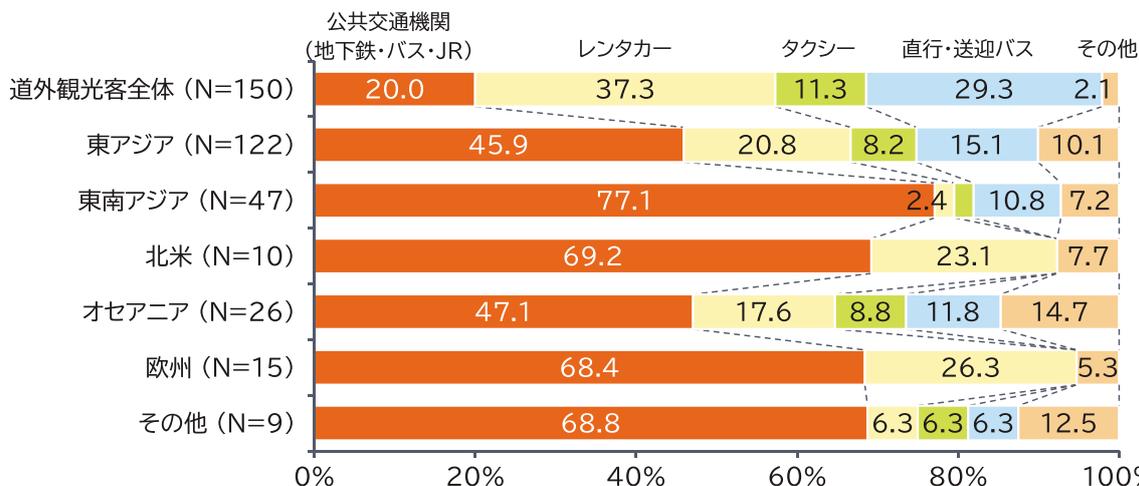
<資料>札幌市「スノーリゾート推進に係る基礎調査(令和元年度)」

市内スキー場を訪れたインバウンドのスキー・スノーボード実施率



<資料>札幌市「スノーリゾート推進に係る基礎調査(令和元年度)」

市内スキー場を訪れた観光客のスキー場へのアクセス方法



<資料>札幌市「スノーリゾート推進に係る基礎調査(令和元年度)」

<資料>札幌市調べ(道外観光客へのアンケート調査)(令和2年度)